

昨年ほとんど一年でしかた。輸入材が90%以上に達し、収益は圧迫された。価格改定を実施し、今期は材料費の吸収はできると考えている。

今年の方針は、

価格改定後も売り上げ的には問題なく推移している。さらに、家から少々高くても買っているという、家にも少ないものづくりを追求していきたい。取引先の小売店もいっしょに扱っているところ、はまたあまみ調だが、そうでないところ、格安な家具量販店との価格競争で苦戦

昨年2月とどんな年でしたか
地域活性化ファンドの創設をはじめ
富山県信組との業務提携、人型ロボット
「ベッパ」導入、新型店舗の東山支店
開設、中小企業の人材確保支援を目的
としたNPO法人G・H・Eとの提携など
と、新しい施策を積極的に展開した一
年だった。
そうした施策に共通する思いは。
地域金融機関として地域を元気にする
にはどうしたらいいのか、ということ
が基本。年末に行ったプロジェクト
マッピングは地域活性化と観光振興に

広域合併以来20周年の節目を4月に迎えることができた。組合員や生産組織の皆さんのご支援・協力のおかげでわれわれ飛騨平野には地域を守っていく大きな役割があり、その力を発揮できるかと自負している。今後とも農家の所得拡大に向け、生産者と共に歩むためには変える。地域の農業振興のため、に注力していく、そのことをあらためて確認した有意義な年だった。

農協改善・環太平洋連携協定(TPP)の影響や対応は、

「2016年の戦略」目標をお聞かせください。

企業が海外に進出し、海外でものを作ったり、日本を輸入するということがスタンダードにもなっているなか、知的財産の分野も国内だけで完結することができなくなりました。もはや日本だけで特許や商標権を占める時代ではなくなると、海外では生産拠点を海外に作ることも、海外で技術や商標が模倣されたことも、海外に進出てあります。韓国、海外でも十分企業への知的財産権が守られるようして

少子高齢化が進む中、人口構成や医療ニーズに合わせた医療提供体制の再編が求められている。さらに、自自治体病院においては改革が進められており、一つの病院で完治まで担当従来の病院完結型から、地域医療機関が連携して治療する地域連携型への転換を目指している。地域連携型とも始まるなど、地域に必要な医療機能を見直され始めました。さらに昨年度には、異なる運営の医療機関や介護施設を一体的に運営する地域医療連携推進法人制度を盛り

飛驒産業株式会社

代表取締役社長 岡田 賛三氏

しているところもあり、いいものを扱
う小売店としてかりとれたパートナー
シップを組んでいく。

●国庫財利用拡大に向けた取り組み
はどんな状況ですか

「注目を集めるようになった。家具
業界ではない異業種アメリカからも
2014年度デザイン賞資金を
受賞したアームチェアと同じ仕様材
質を使いたいとオファーがあり、共同

さらなるパートナーシップの強化へ

追い風が吹いている。地域資源の国産材を活用しうと林野庁も積極的に働き掛けをっており、このように、当社が先駆けて開発した杉の圧縮柱目を使った材は、これまでになかった素材と開発を進めているところ。圧縮技術を用い、高圧リソリングの需要が出てきており、高市上室町に新しく一貫工場を準備し、フル生産している。今までなかったチャネルの方々の工場見学もか

利便性の高い金融サービスの創造

入ってきたらと金儲けした。新たに力を
寄せてきたがスポーツ振興、昨夏の高野球岐阜大会では、愛太高校の活躍、飛騨地域が大に盛り上がりつった。
には、スポーツには年配を問わず、男気

「今年の方針は、
おかげで預金や融資は伸
業績は順調に移移している。前
の施策がお客さんの支持を得た
のではないかと、これからは地域でい

ポールリーグ女子の飛騨高山ブラックブルズ岐阜のメンスポサンサーになったのも、トップリーグに参戦するチームが頑張れば地域の活気につながるからだ。

ていきたい。今年4月には新しい中期経営計画がスタートする。当組合が共に牽引していくためには、人口減少や少子高齢化といった地域の課題に対し、どの

ＴＰＰについては、畜産とコメが一番大きな影響を受けるのではなかと考
える。食味・タンパク質で特長に
認定された飛騨産コシヒカリの優位性
をさらに高めていく。飛騨牛は、ＪＡ飛
騨の重点施策は、

良品質な農畜産物を作る取り組みを強化

驛ミートがグローバルに輸出展開できる位置付けを得られたい意味は大きい。今後園芸分野でも国の支援策を求めたいと語った。

国は大規模化・低コスト化を推進している。単位農協としての強自性について生産者と話し合う中で、飛騨の農畜産物物を自ら販売する努力をしていくべきだ」といふことで、昨年1月、営農販売協議会の室を立ち上げた。日本食農連携機構と

から経済成長に際りて見えてきました。諸君のお客は、今でも中国から、ASEAN諸国のお客は、今でも東南アジア、マレーシアに生産拠点を移されるケースが、ここ数年間の特に顕著な例について、年間の輸出物件数に4万件から11万5千件と増えています。経済自国から船型型に変わってきたことによ

はかり、そのようなときに円滑なサポートができるようにしたいと考えています。弊社の海外でのネットワークをご提供していききたいと思います。

込んだ改正医療法も成立し医療費や地域間・病院間の格差など、日本の医療が抱える問題解消に向けて、医療の質と経営、両面での変革がいよいよ現実的

に思えられる仕組みを整えてきた昨年までに、最新設備の手術室などを備えた北堀ノースクウェアの建設と回復期・慢性期に重点を置いた病棟と老人保健施設を内包した南館のサウス

地域の医療ニーズに総力で対応

 GOOD DESIGN

概 要	
〒550-8686 高山市幸町南1-3180	TEL.0577-32-1001
創 業 年	1920年(8月)
資 本 金	1億円
従業員数	441人(男子317人・女子124人)
事業内容	●2015年12月1日現在 株式会社イナバの製造販売 自然エッセンスによる美容関連業 林業・製材業
事 業 所	北海道・上野幌工場
ショールーム	北海道厚岸郡 幌山・札幌・名古屋・大阪・福岡・仙台
その他	(ISO9001・2008)・(ISO14001・2004)「老 舗製造所」FSC®COC認証を取得

<http://kitutuki.co.jp>

概 要



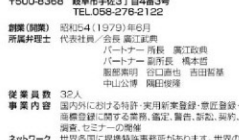
<http://www.hidashin.jp>

概 要



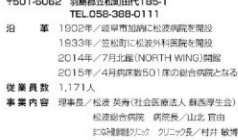
店 舗 等 本店、支店(31ヶ所)、事業所(49ヶ所・営業所含む)
子 会 社 JAグリーン株式会社、有限会社JAひだ農業生産法人
<http://www.ja-hida.or.jp>

概 要



<http://www.hiroe.co.jp/>

概 要



<http://www.matsunami-hsp.or.jp>